

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076100108		
法人名	有限会社 グループホームほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	〒820-0701 福岡県飯塚市長尾928番地の6	Tel 0948-72-3734	
自己評価作成日	平成29年12月02日	評価結果確定日	平成30年02月04日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成30年01月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は共有スペースが広く大きな窓で明るく過ごしやすい空間を提供している。大きく開放感のあるオープンテラスより人の通りや、車の流れがみえて、社会との一体感を感じられ心地よい暮らしができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほほえみ」は、中学校や福祉施設が周辺にある自然豊かな環境に、平成25年3月に新築移転した、1ユニット定員9名のアットホームなグループホームである。自治会や老人会に加入し、公民館の行事や町内会の祭りに地域の一員として積極的に参加している。また、小、中学校の体験学習や子ども会のハロウィンパレードの受け入れ等は、利用者の笑顔が輝くひとときである。協力医療機関による月2回の訪問診療と緊急時の対応、週1回の訪問看護で、24時間安心の医療体制が整っている。利用者の好みと旬の食材を採り入れて、調理上手な職員が手作りの家庭的な食事を提供し、大変喜ばれている。管理者を中心に、「想い」を同じくする職員集団が、家庭的で温かな介護サービスで利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の「ほほえみ」を引き出し、家族の安心と信頼に繋げている、グループホーム「ほほえみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常、日頃より事業所の理念を念頭に置き笑顔で接することを実践に繋げている。	「入居者にほほえみ・家族にほほえみ・地域にほほえみ」を理念に掲げ、目につく場所に掲示している。常日頃から、「笑顔でね」と、職員間で声を掛け合い、利用者も職員も、笑顔で楽しく過ごせるよう、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の盆踊り、町内会の夏祭りに参加している。 子ども会のハロウィン施設にお招きしたりと、地域の方との交流を深めている。	運営推進会議の参加委員である地域代表から、情報提供を受け、公民館の行事や地域の祭り等に積極的に参加している。また、小・中学校の体験学習の受け入れや、子ども会のハロウィンパレードの受け入れを行う等、新築移転後3年半が過ぎ、地域交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉の集いなどに、積極的に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している。 活動状況や行事報告を行っている、また地域の方からの情報収集や意見交換をしながら、サービス向上に活かしている。	会議は、利用者代表、家族、自治会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。ホームから、利用者の状況、行事について報告を行い、参加委員から、質問や要望、情報提供を受け、それらの意見をサービスの向上に活かしている。	会議のマンネリ化を防ぐため、専門職を招いてのミニ勉強会や、会議の中で避難訓練や試食会、レクリエーションを行う等、参加したくなる会議を目指す取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点を質問したり、アドバイスを受けたりしながら、よりよい協力関係を築いている。	管理者は、利用状況や事故等の報告を、行政担当窓口に行い、連携を図っている。介護相談員の受け入れや、運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームの現状を理解してもらい、助言や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が年一回の研修をうけて、施設内での研修も年1回は行い、身体拘束のないケアを実践している。	内部で行う勉強会や外部研修に参加する事で、身体拘束についての理解を深め、職員の意識づけを行っている。身体拘束に当たる行為について確認しながら、職員一人ひとりが自覚をして、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、ミーティングで全職員に報告している、毎日の生活の上でも虐待が見過ごされないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、制度に対する理解を深めるよう勤めている。	成年後見制度を活用している利用者がおられるため、後見人とのやり取りを通して、制度についての理解を深めている。また、外部研修への参加等、制度について学ぶ機会を設けている。資料やパンフレットを用意して、必要時には制度について説明を行い、関係機関に繋いでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、認知症対応型共同生活介護の目的や提供場所について十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会時には、必ず苦情、要望をお聞きし、すぐに対処できるよう心がけている。	日常生活の中で、利用者の意見や要望の把握に努め、出来るだけ反映している。家族については、面会や行事参加の時に、コミュニケーションを図り、意見や要望を尋ね、出された意見等を運営に反映させている。また、2ヶ月毎にホーム便りを送付し、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で意見交換を行い、改善を図っている。 よりよいサービス向上を目指している。	月1回、職員会議を開催し、18時から勉強会、その後に話し合いを行っている。事前に議題が示されているため、各職員が意見を整理して会議に臨むことができる。業務の中でも、日頃から意見交換を行い、出された意見や提案は、出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩みなどを聞き、向上心を持って働けるように職場環境条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用や募集に関しては、性別、年齢に関係なく採用している。	職員の採用、募集にあたっては、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先している。内部の勉強会、外部研修についても積極的に受講して、職員が向上心を持って働ける環境を整えている。職員間で助け合うチーム介護に取り組み、働きやすい職場環境の中で職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習は職員が順番で参加している。 人権に対する意識を持つように取り組んでいる。	人権に関する研修会に職員が参加して、伝達する事で、人権に関する意識づけを行っている。日頃から、「一人ひとり違い」「その方の習慣があり、戸惑いがある」等と、利用者一人ひとりの人権の尊重を意識しながら、実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域主催の研修に参加している。 職員の力量を把握し、一人ひとりのケアができるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加しながら同業者との情報交換をして、サービスの向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安や希望、要望を管理者や施設職員、計画作成担当者が共有し、ご本人様の要望等に添えられるよう支援に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意見や、要望、不安などが聞ける機会を設けご家族様との信頼関係を築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族の要望や生活歴などを丁寧に聞きとり把握して、サービス支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩、人生の師と仰ぎ、日々の生活に尊厳を持ちともに暮らす中で学び支えあっている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の支援をする中で、必要に応じて家族との協力を得ながら、不安なく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品やご家族の写真を各居室に飾り、馴染んでいた雰囲気継続ができるように努める。	利用者の友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛げる環境を整えている。入居時に、利用者のこれまでの人間関係や生活環境を聴き取り、職員間で情報を共有して、会いたい人に会い、行きたい所に行けるよう支援に努め、利用者が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や好み経験などを把握し、入居者同志の関係が円滑に行われるように心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に施設を紹介するなど支援行っている。 定期的に訪問したり電話で様子を伺うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族から今までの暮らし方や思い出話を聞いて、本人本位である介護を目指し支援するように努めている。	職員は、日頃の関わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。意向表出が困難な利用者については、家族に相談しながら、利用者の表情や仕草から思いを汲み取り、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や様々な経験や出来事など把握し馴染みのある暮らしに近い状態で過ごして頂く様にホームの中で活かせるように支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が自分でできることを維持して頂くよう、見守り支援行っている。 失われてしまったと思われている能力を把握してできる力を見極めながら声かけ支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に職員間で話し合い、今後の介護計画について検討する。 入居者やご家族からの希望、要望も伺っている。	利用者や家族の意見、要望を聴き取り、職員会議時に、職員の意見や気づきを収集して、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた点などを記録し、よりよい介護計画が立てられるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医の往診、症状の変化に応じ、入院時は職員が着替えを届けたり病状を聞いて、ご家族に状況の報告をしたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会、老人会の協力を受けながら支援を得ている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医と密に連絡を取り、急な受診や予防接種等の支援を実施している。	契約時に、利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。現在、全員がホーム提携医が主治医であり、月2回の訪問診療と緊急時の対応、週1回の看護師による健康チェック、介護職員との連携で、24時間、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し適切な対応ができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は主治医から情報もらい、早期に退院できるよう情報交換に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった時には職員全員で快適に過ごせるよう努力し、医師や家族と話し合い、意向に沿うようにしている。	重度化や終末期に向けた方針については、利用者、家族に希望を聴いて、ホームで出来る支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と連携し、方針を話し合い、出来るだけ、本人、家族の意向に沿えるよう、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、連絡網に沿っていち早く対応に強めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回夜間想定での避難訓練、消火器の使用方の訓練を行っている。	年2回、夜間を想定して避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者全員を安全に避難誘導出来るように取り組んでいる。また、運営推進会議を通じて、地域の方に協力をお願いしている。非常時に備えて非常食、飲料水も備蓄している。	年1回は消防署の参加をお願いし、指導を受ける事によって、災害対策の見直しに繋げていく事と、夜勤の職員を中心に、夜間想定での訓練を繰り返し行う事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーへの配慮について外部の研修会や内部勉強会を行っている。	接遇や身体拘束の研修の中で、利用者の尊厳や権利について学び、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、管理者が常に説明し、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望する事や思いを表すことができるように自然な声かけを心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは流れに沿っている。 その人らしい暮らしについてもっと暮らしを考慮し、少しでも近づけるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回訪問理容師さんに来てもらい散髪をおこなっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに配慮しながら入居者の希望を把握し参考にしながら決めていく。	利用者の好みに配慮して献立を決め、調理上手な職員が手作りの美味しい食事を提供している。そうめん流しや焼き肉パーティー等、普段と違う食の場面を作り、楽しみながら食事が出来るように取り組んでいる。また、家族や友人と外食を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事の量や水分量を記録して栄養のバランスを取った支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方には介助し、週一回訪問歯科による歯科検診口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、トイレにて排泄、自立に向かった支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや、トイレ誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も利用者の希望を優先し、可能な限りトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の量や水分量の記録を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の状況により入浴順番を決めながら対応している。 自分で入浴できる方は見守りにて対応している。	利用者の体調や気分に合わせて支援し、一日おきの入浴を基本としている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、曜日を変更したり、清拭や足浴の支援を行っている。また、入浴は利用者と職員がゆっくり話しが出来る貴重な時間と捉え、しっかりとコミュニケーションを取りながら支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し状況に応じ、安心して休息していただけるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった時は申し送りや申し送りノートで伝えられている。 服薬時一人で確認せず他の職員に声かけ確認を行い服用するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状態等にあつた役割を持っていただき日々の生活に活気を持てるように配慮支援している。 洗濯物たたみやテーブルふき、下膳など職員と一緒にやっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出予定は立てているが、その他ご本人様外出希望されれば添えるように支援に努めている。	天気の良い日を利用して近隣の散歩に出掛け、利用者の気分転換を図っている。季節毎に外出レクリエーションを計画し、花見や外食、祭り見物等、生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームでしている。 買い物の希望、外食希望があればいつでも使えるように対応している。 同行支援も行っている。 残高確認の希望があればその都度お伝えしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人へ電話を希望される時はいつでもかけられるように対応している。 中にはご家族の都合や意向などに配慮し支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち換気を行い過ごしやすい空間作りをし快適な生活ができるように支援する。	ゆったりとした造りの明るいいりびングルームは、利用者が一日の大半を過ごす憩いの場所として、音や照明、温度や湿度、換気にも配慮された快適な環境である。室内には、ホームを訪れた子供たちの写真や行事での利用者の笑顔の写真を掲示し、観葉植物を配置して、温かな雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーとソファーの間隔をとり、ゆっくりと座って頂いている。 一人で居室でくつろがれたい方には居室で過ごされるように声をかけている、時々訪室行き様子伺い行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との思い出の写真や生活用品を身近に飾るなどして心地よく過ごせるように支援している。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等大切な物を持ち込んで貰い、利用者が安心して暮らすことができるよう支援に努めている。また、室内は清掃が行き届き、明るく居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作を把握し身体状態に応じて時間はかかっても、できるだけ自分でできることはしていただき持つる残存機能を無理なく活用できるように支援する。		